



(39) 速筋系の眼球運動訓練法

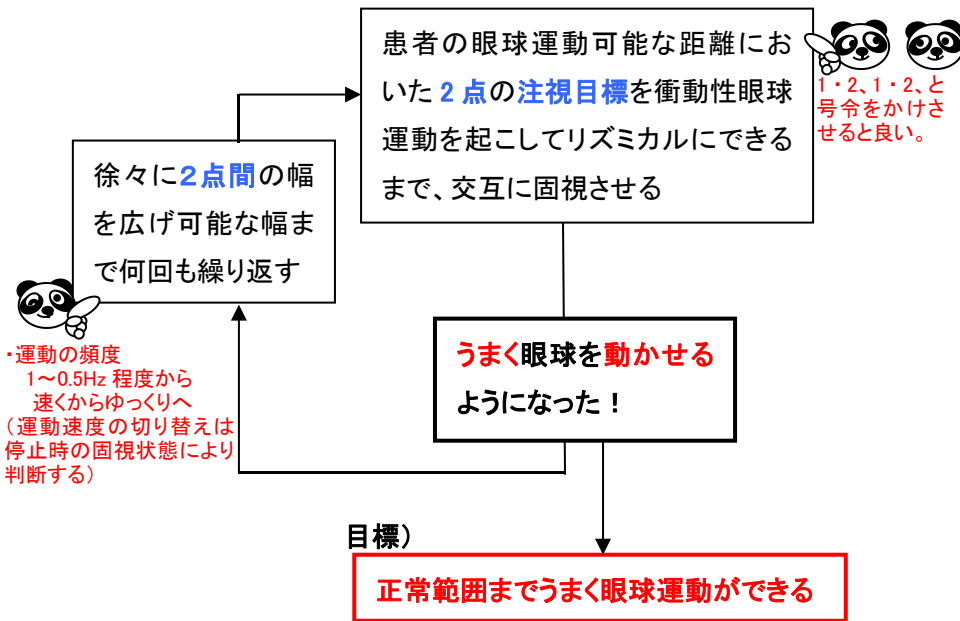
参考) 視能矯正マニュアル P171



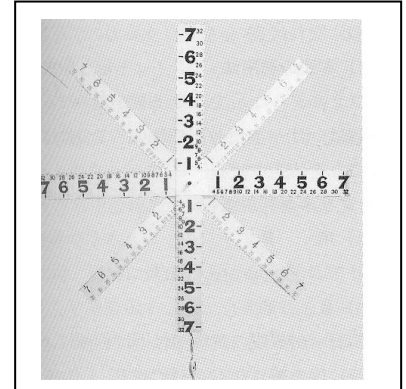
目的

反復した視性刺激を通して、眼球運動を滑らかにする

準備物 距離をおいた2点の注視目標



例) 川崎医大で使用している視標



深井小久子: 視能矯正マニュアル P171

(32) 徐筋系の眼球運動訓練法—融像固定訓練: fusion lock training

参考) 視能矯正マニュアル P171、視能訓練学 P339

準備物 大型弱視鏡・融像スライド・線条メガネ・光源・大型分度器



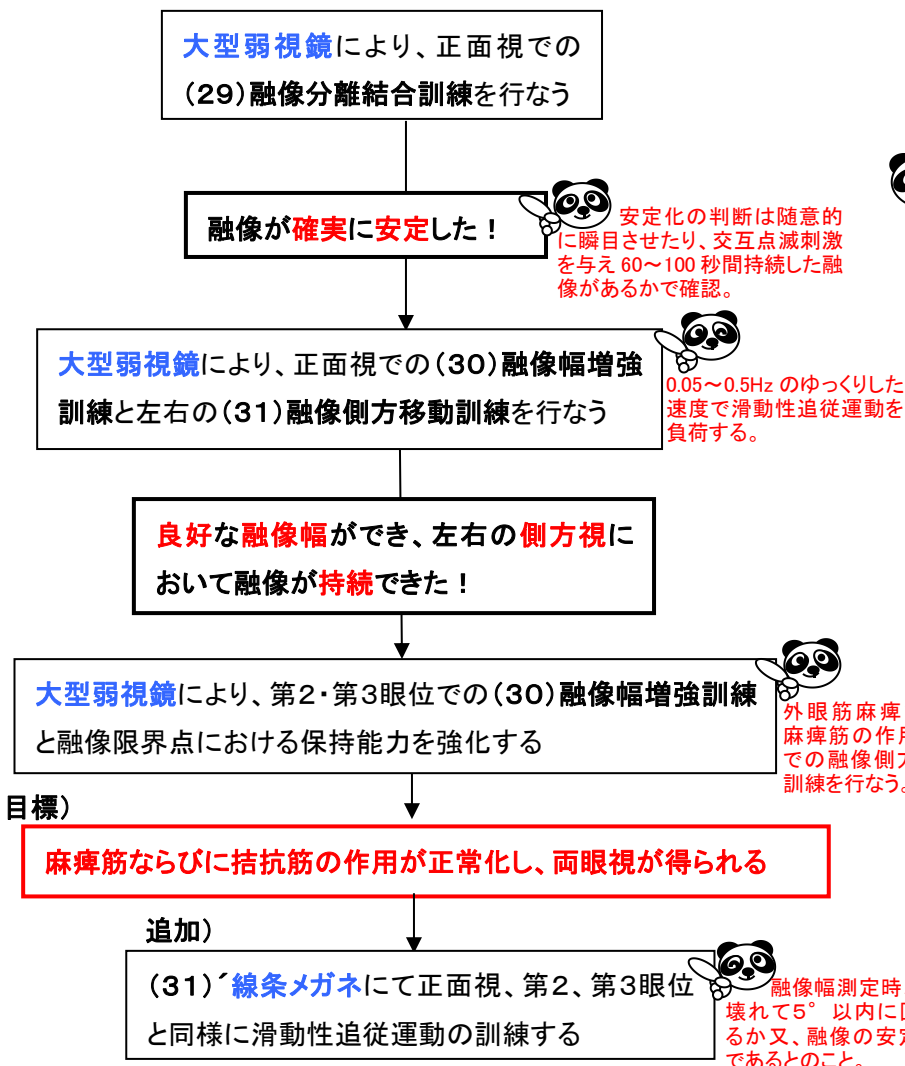
目的

後天性外眼筋麻痺による眼球位置覚(さしこし現象)の障害を矯正する(融像機能によってしっかりと両眼の中心窩に鍵をかけ、その上で両眼の平行眼球運動を負荷して反復させ脳内での位置のずれと筋性の位置覚を正確に一致させ再建させる)



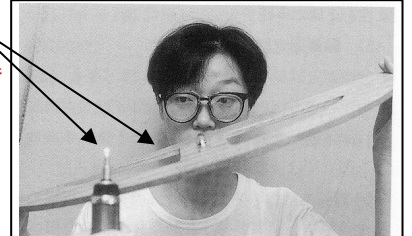
適応

後天性外眼筋麻痺や正常対応となった斜視の場合



例) 線条メガネによる融像固定訓練

大きな分度器
ペンライト



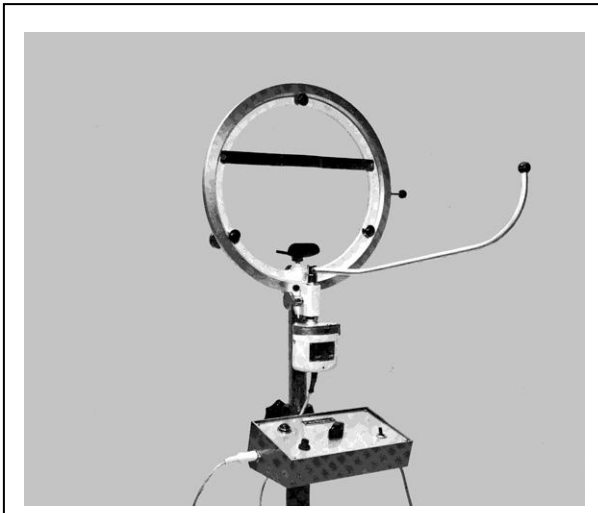
深井小久子: 視能矯正マニュアル P171



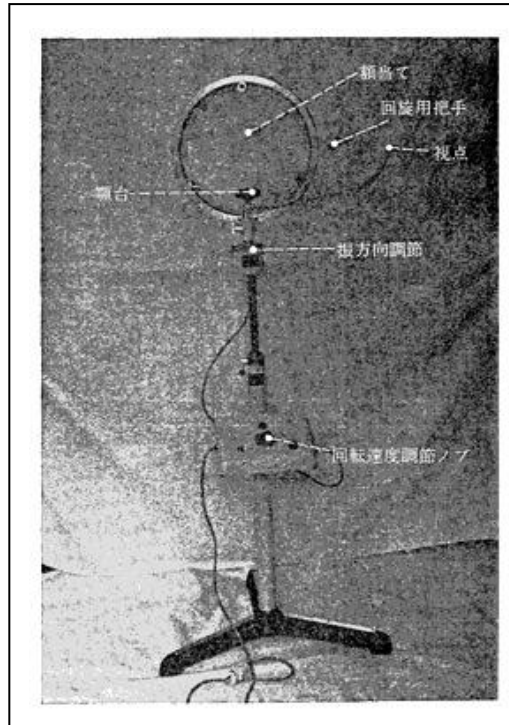
若山曉美: 視能矯正学 P339 一部加筆

(40) ムスケルトレーナー: Muskeltrainer(MUSCLE)

参考) 視能矯正-理論と実際-P215



添付説明書より



湖崎克: 視能矯正-理論と実際-P215

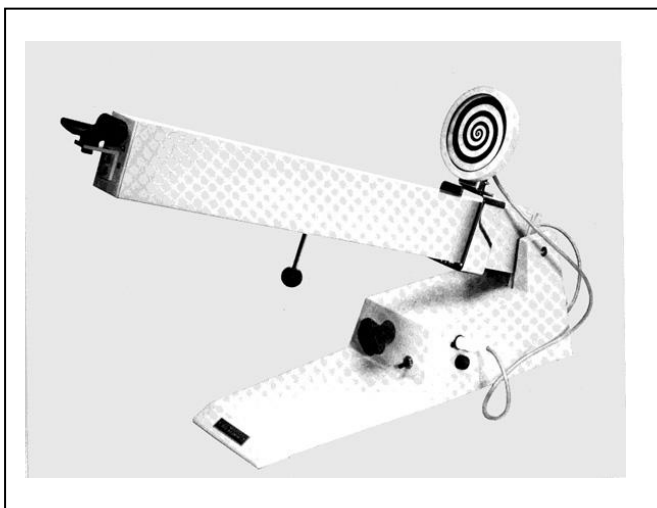
目的: 眼筋運動を強める訓練。

構造: 振り方向、回転速度が変えられる棒が眼の前で水平に運動する器械である。回転方向は水平のみでなく、回旋用把手によって斜め方向にすることも可能である。

使用法: 患者に額当てと顎台で顔面を固定させ、棒の先の視点を見つめさせる。振り方向、速度は病状によって選ぶ。

(44) コンベルゲンツトレーナー: Konvergenz (convergence) trainer

参考) 視能矯正-理論と実際-P215



添付説明書より

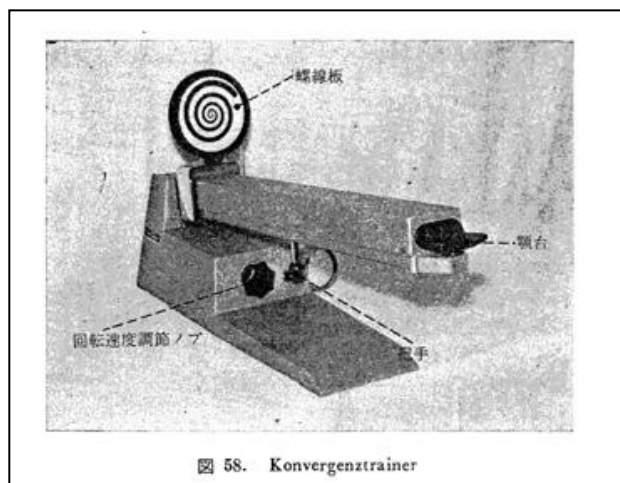


図 58. Konvergenztrainer

湖崎克: 視能矯正-理論と実際-P215

目的: 内よせ力を強める訓練。

構造: 前方に螺旋図形(アレクサンドル図形)があり、それがモーターで回転(右回り)する。回転速度はノブで変えられる。またこの螺旋板把手を患者が手前に引くと、眼前へ寄せることができる。

使用法: 顎台に額をのせた患者に、前方の回転する螺旋板を見つめさせ、検者自身が、把手を引き寄せ、手前にくる螺旋板によってさらに内よせさせる。